

日本古代史ネットワーク  
解明委員会

古代史研究の方法論  
(たたき台)

2020年12月5日

丸地 三郎

# 日本古代史についての認識



# 重点テーマ

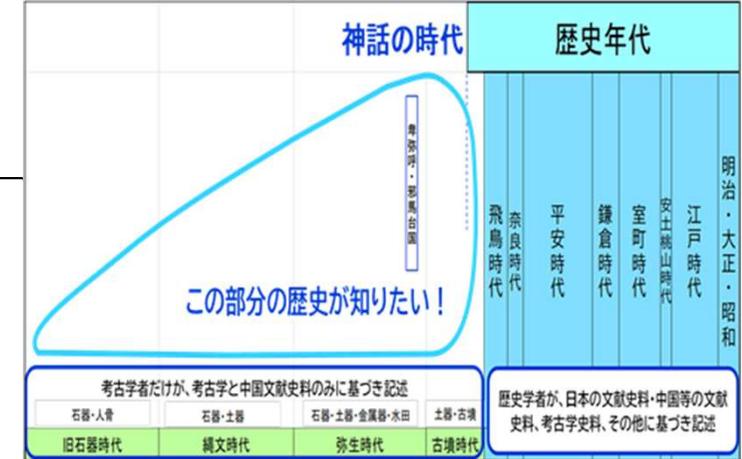
- 当会が目指すのは、古代史全般では無い。
  - その中の特定の分野です。

- 時代と地域

- 時代は、**日本人の起源**から、**弥生・古墳時代**まで。
  - その中で、特筆すべきものが、**邪馬台国**の時代と地域
- 地域は、
  - **日本と大陸との交流**が、日本人の起源と歴史に大きな影響を与えた。
  - 日本人の起源では、アフリカ大陸を出て、日本に至るルートが問題で、地域の中が広がる。

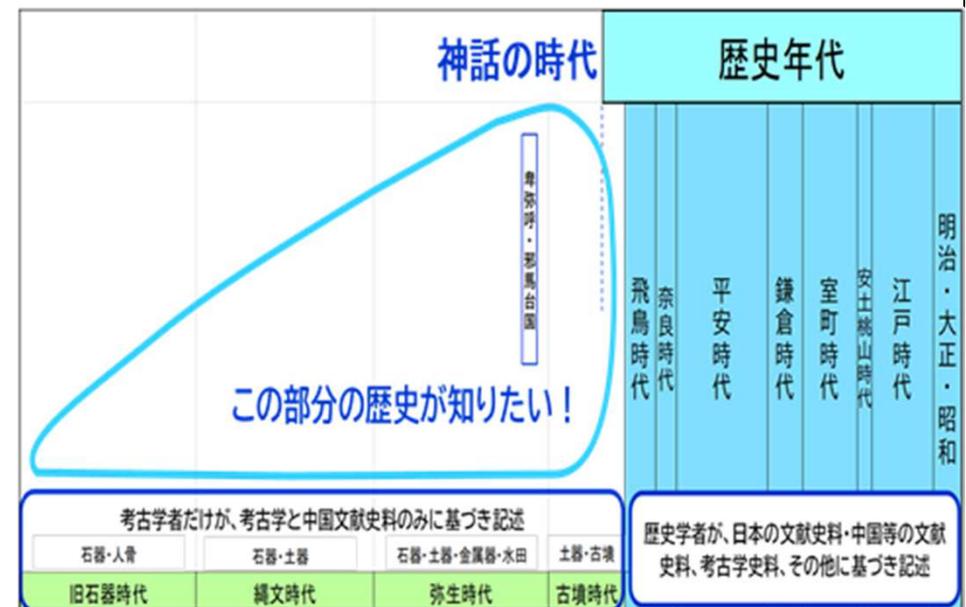
- 方法

- 日本の文献史料
  - 歴史家が認めない**古事記・日本書紀・風土記**などの文献史料を採用
- **科学的年代論**
  - 絶対年代が科学的に判明するとしたら、古代史の解明は近いが、現状は、それと程遠い、嫌な懸念される状況にある。



# 私達が知りたい歴史

- どんなレベルの歴史を求めるのか？
  - 子供たちが、社会を学び、理解するのに必要な歴史
  - 専門家が、その知的興味を追求する高度で詳細な歴史
    - 例：個々の考古学遺跡・遺物の細部
    - 例：青銅鏡の文様の細部や形式
- ☆ 経験を積んだ社会人が、自己と自己の居る社会の背景を改めて、振り返った時に、知りたいと思う歴史
  - 人と社会のつながりが基盤にある歴史
    - 民族・社会集団・国家などの人間の集団の消長
      - 外交・軍事・経済・戦略・技術・文化
    - 人間集団の社会基盤
      - 生存基盤・経済・流通・地理・



## 歴史解明の基盤

- 文献を取り扱う歴史家が、神話時代と評された歴史をないがしろにしている現状で、私達＝非歴史専門家が、解明を行えるのか？
- 私達(非歴史専門家)が、新事実の発見・新しい解釈が出来るのか？
  - ✓ 歴史家に任せるべきで、発掘も、文書の解釈もできない人達は、解明される時を待つべきでしょう。と云う意見もある。
- ネット社会になり、データ公開が行われる現代の社会では、
  - 歴史家と同等レベルの史料を入手できる状態になった。
    - 論文、遺跡発掘報告書など、ネット上で公開されている。
    - 国会図書館は、一般人にも開放されている。(今も、昔も)
  - 古代史の研究の基盤は、多くの科学・社会科学に依存する。
    - 地理学、医学、農学、生物学、言語学、民俗学、民族学等々
    - 科学的年代測定法・DNA解析
  - 科学の分野の成果を取り扱える人々が、歴史解明には有用
    - 科学を理解し、その成果を適正に扱える歴史家が、どれだけいるのか？

# 解明に関わる学問分野

- 多様な学問分野で、古代史に関連する研究が行われています。
  - 建築学、地理学、医学、農学、生物学、言語学、民俗学、民族学等々。
- これらの科学的成果を古代史に取り入れ、解明につなげたい！
  
- 古代史に関わるのは、考古学だけでは無い。
  - 古事記・日本書紀・風土記などの日本の文献史料
    - 神社仏閣に残る、伝承・碑文・文献
    - 地域に残る伝承・碑文
      - » 神社の主祭神、神社の分布
  - 社会科学・科学の分野
    - 建築学、地理学、医学、農学、生物学、言語学、民俗学、民族学等々
      - » 目的の時代の地理環境、気候、生物(植物)、
      - » DNA解析
- ✓ 様々な分野の知識が、古代史の解明には必要です。
  - 史料の少ない古代史では、周辺科学・周辺学問分野の手助けが必要です。
    - ✓ 1人の歴史家が、周辺科学を、周辺学問分野を、理解できるのか？  
正しく利用できるのか？
    - ✓ 現在のプロの歴史家が、正しく周辺科学を使いきれているのか？ 疑問です。

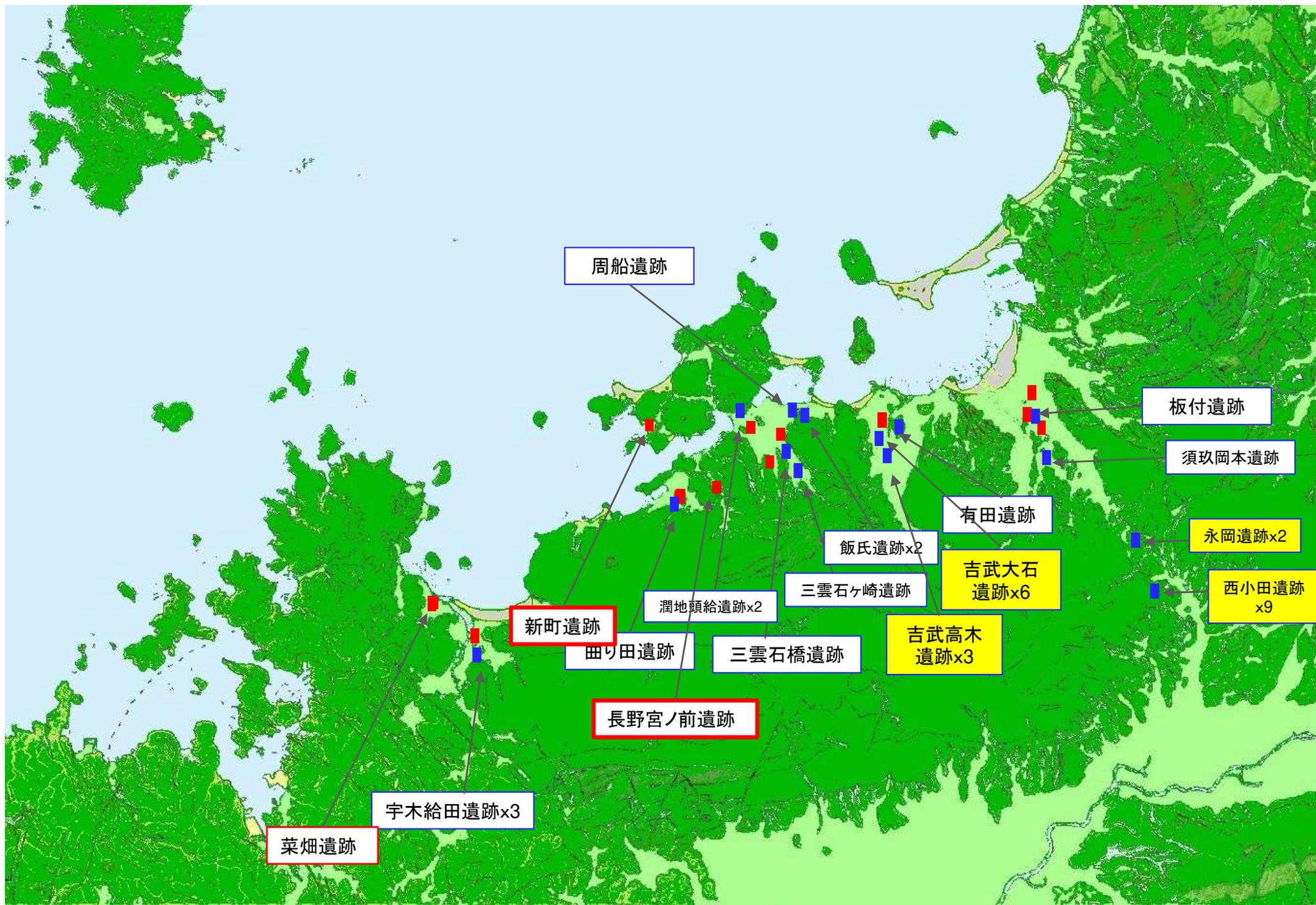
# 周辺科学・周辺学問分野

- 1人の歴史家が、数多くの分野を正確に理解し、正しく利用できないならば、どうすべきか？
  - 多様な学問分野を古代史に活用するには、古代史に興味を持つ、  
多様なバックグラウンドを持つ人々の協力・支援が役立ちます。
- 1人の個人でできなかつたら、多くの人を力を合わせれば、可能性が出てきます。
  - 日本古代史ネットワークの参加者は、多様性をもって経歴を持つ、その道のエキスパートが居るはずです。
    - その方たちの力(能力)が生きてくるはずです。
- 解明の可能性を示す方法
  - 特定のテーマを検討することとします。
    - その時代が特定できれば、
      - その時代の、その地域の、地形、気象環境を、協力賛同者が調べ報告する。
        - » 報告を聞き、理解して、解明の基礎データとする。
      - その時代の、遺跡(戦争であるならば、高地性集落の分布、地域・時期)を調べ、一覧表とする。(目的のものが有れば、活用)
        - » 一覧表から、地図のスキルのある人が、地図上に時期毎に遺跡を表示する
          - 地図上に時期毎に、表示される遺跡を見ると、遺跡に関わる動きが、共有できる。新しい視点がそこから生まれる。

## 1次渡来民と初期水田・支石墓 1次渡来民との戦いの補足

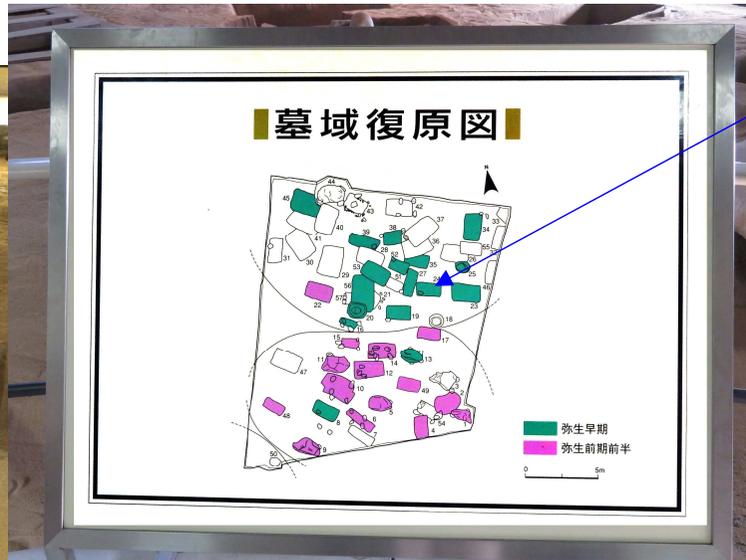


## 甕棺内の戦傷遺跡(橋口達也「弥生時代の戦い」中K I・II:早期)



# 2次渡来 直後の戦い : 新町遺跡では

- 糸島市新町遺跡を訪問
- 弥生早期の支石墓墓域に甕棺の入る墓域が侵入し新住民の墓地に置き換わる。



## ■ 24号墓の人骨 ■



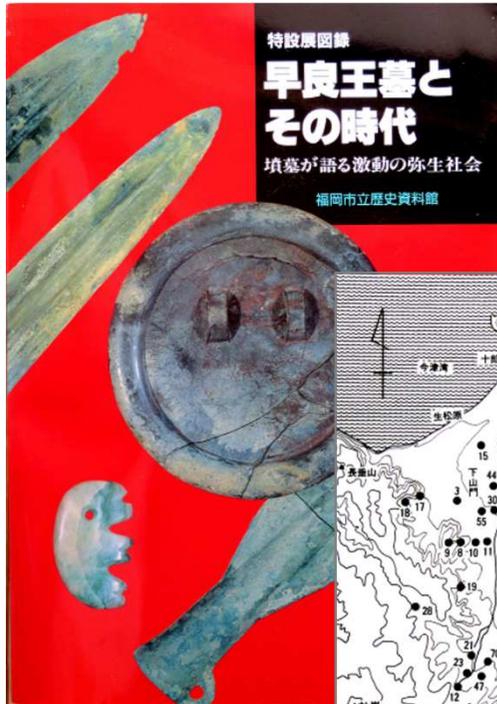
ここ24号墓からは成人男子の骨が出土しています。この骨の左足の太ももには磨製石鏃が刺さったままになっていて、この男の人が戦闘で死んだことが分かります。

また、この骨の下には人頭大の穴があり、そこから少年男子の歯だけが出土しています。

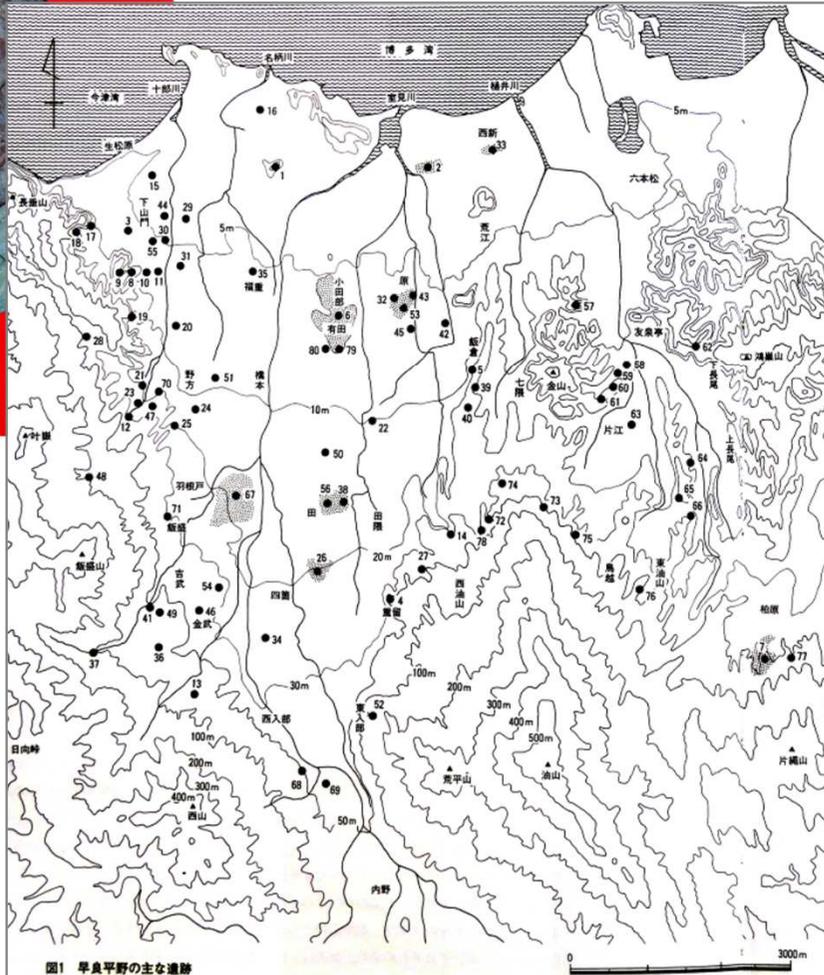
このような異常な人骨の出土状況は何を物語っているのでしょうか。

おそらく、当時の部族間の戦争があって、この24号墓の主が戦死したことの報復に、相手部族のまだ幼い少年の首を切って、この墓と一緒に納めたのではないのでしょうか。当時は首狩りの風習が日本にもあったのかもしれませんが。

# 外の地域の実態を 早良平野の例で確認する。



早良平野の時代毎の  
遺跡分布図で見る。



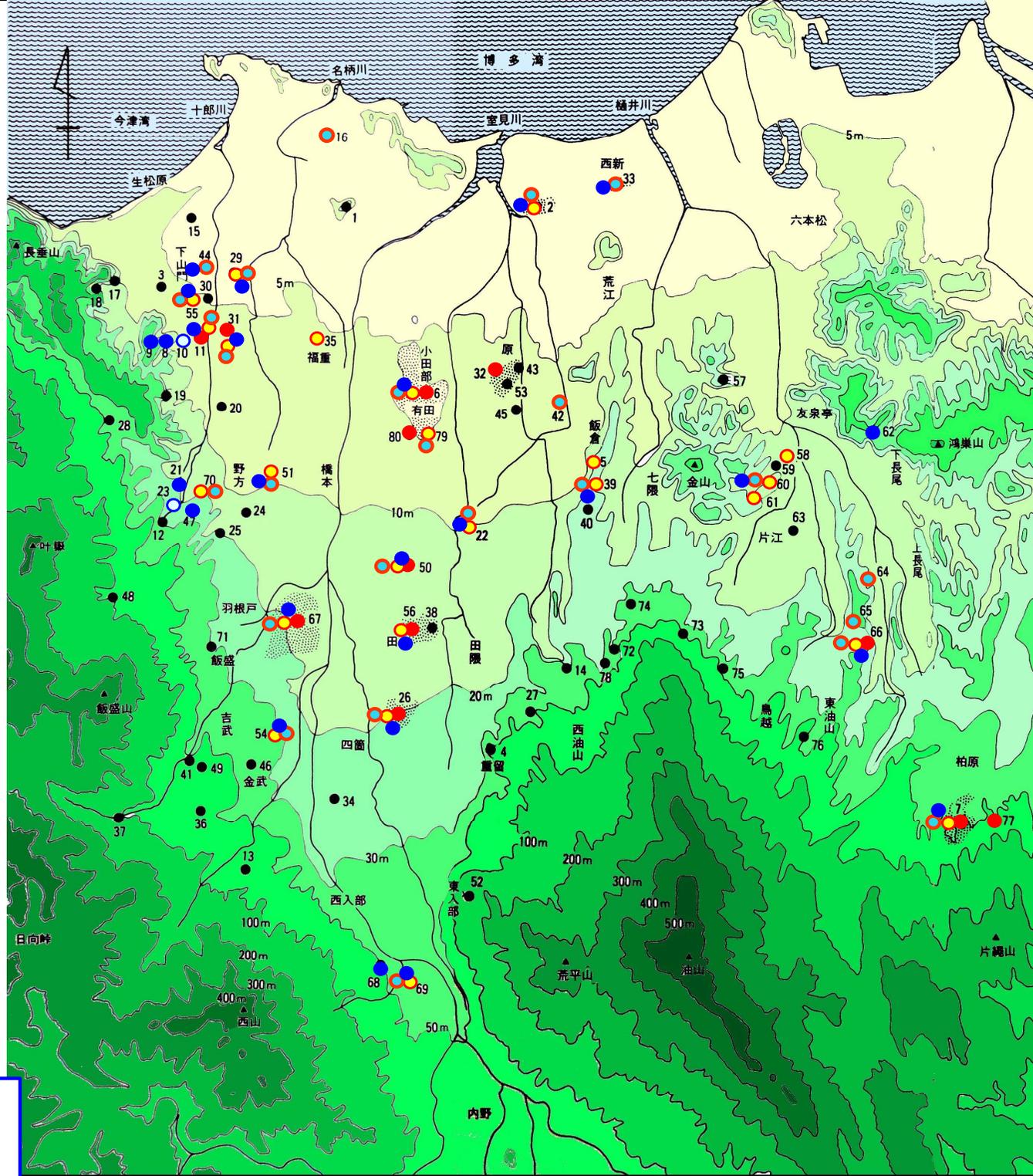
この書籍中では、初期の水田稲作が行われた時期は、「縄文晩期」としている。これを弥生早期と記すことあり。縄文晩期との表現を残し、使用する。

No.	遺跡名	遺構	時代
1	五藤城	遺跡	古墳前期
2	山道原	遺跡	弥生前期～古墳、奈良
3	遺跡	遺跡	奈良
4	遺跡	遺跡	古墳前期
5	倉田	遺跡	弥生前期
6	遺跡	遺跡	縄文～中世
7	遺跡	遺跡	先土器～中世
8	遺跡	遺跡	弥生後期～古墳後期
9	遺跡	遺跡	古墳後期
10	遺跡	遺跡	弥生終末～古墳
11	遺跡	遺跡	縄文・弥生・古墳
12	遺跡	遺跡	古墳後期
13	遺跡	遺跡	古墳後期
14	遺跡	遺跡	古墳後期
15	遺跡	遺跡	古墳～平安
16	遺跡	遺跡	弥生中期
17	遺跡	遺跡	平安
18	遺跡	遺跡	古墳後期
19	遺跡	遺跡	古墳後期
20	遺跡	遺跡	古墳～奈良
21	遺跡	遺跡	弥生後期～古墳
22	遺跡	遺跡	弥生前期～古墳
23	遺跡	遺跡	弥生終末～古墳
24	遺跡	遺跡	古墳
25	遺跡	遺跡	古墳～中世
26	遺跡	遺跡	縄文・弥生・古墳
27	遺跡	遺跡	古墳後期
28	遺跡	遺跡	古墳後期
29	遺跡	遺跡	弥生・平安
30	遺跡	遺跡	古墳前期
31	遺跡	遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良
32	遺跡	遺跡	縄文晩期～古墳、中世
33	遺跡	遺跡	弥生中期～古墳
34	遺跡	遺跡	古墳
35	遺跡	遺跡	弥生前期
36	遺跡	遺跡	古墳後期
37	遺跡	遺跡	古墳後期
38	遺跡	遺跡	平安～鎌倉
39	遺跡	遺跡	弥生・室町
40	遺跡	遺跡	古墳後期
41	遺跡	遺跡	古墳後期
42	遺跡	遺跡	弥生中期
43	遺跡	遺跡	平安
44	遺跡	遺跡	弥生中期～後期
45	遺跡	遺跡	古墳前期
46	遺跡	遺跡	古墳前期
47	遺跡	遺跡	弥生後期～古墳前期
48	遺跡	遺跡	古墳後期
49	遺跡	遺跡	古墳後期
50	遺跡	遺跡	古墳後期～古墳
51	遺跡	遺跡	弥生・平安
52	遺跡	遺跡	古墳後期
53	遺跡	遺跡	平安
54	遺跡	遺跡	弥生～平安
55	遺跡	遺跡	弥生～鎌倉
56	遺跡	遺跡	縄文～中世
57	遺跡	遺跡	古墳～平安
58	遺跡	遺跡	弥生前期
59	遺跡	遺跡	古墳後期
60	遺跡	遺跡	弥生・古墳
61	遺跡	遺跡	弥生前期
62	遺跡	遺跡	弥生後期
63	遺跡	遺跡	古墳後期
64	遺跡	遺跡	弥生中期
65	遺跡	遺跡	弥生中期
66	遺跡	遺跡	縄文・弥生・奈良
67	遺跡	遺跡	先土器～平安
68	遺跡	遺跡	弥生後期
69	遺跡	遺跡	弥生
70	遺跡	遺跡	弥生前期末～中期後半
71	遺跡	遺跡	弥生後期～古墳前期
72	遺跡	遺跡	古墳後期
73	遺跡	遺跡	古墳後期
74	遺跡	遺跡	古墳後期
75	遺跡	遺跡	古墳後期
76	遺跡	遺跡	古墳後期
77	遺跡	遺跡	古墳後期
78	遺跡	遺跡	縄文・古墳後期
79	遺跡	遺跡	古墳後期
80	遺跡	遺跡	弥生前期末～中期初頭 縄文晩期末

早良平野の弥生遺跡分布

糸島・平原地域

(三雲南小路・鏡溝  
井原・平原遺跡)



福岡平野

(須玖岡本遺跡)



- : 先土器・縄文
- : 弥生前期
- : 弥生中期
- : 弥生後期
- : 弥生終末期
- : 古墳以降

図1 早良平野の主な遺跡



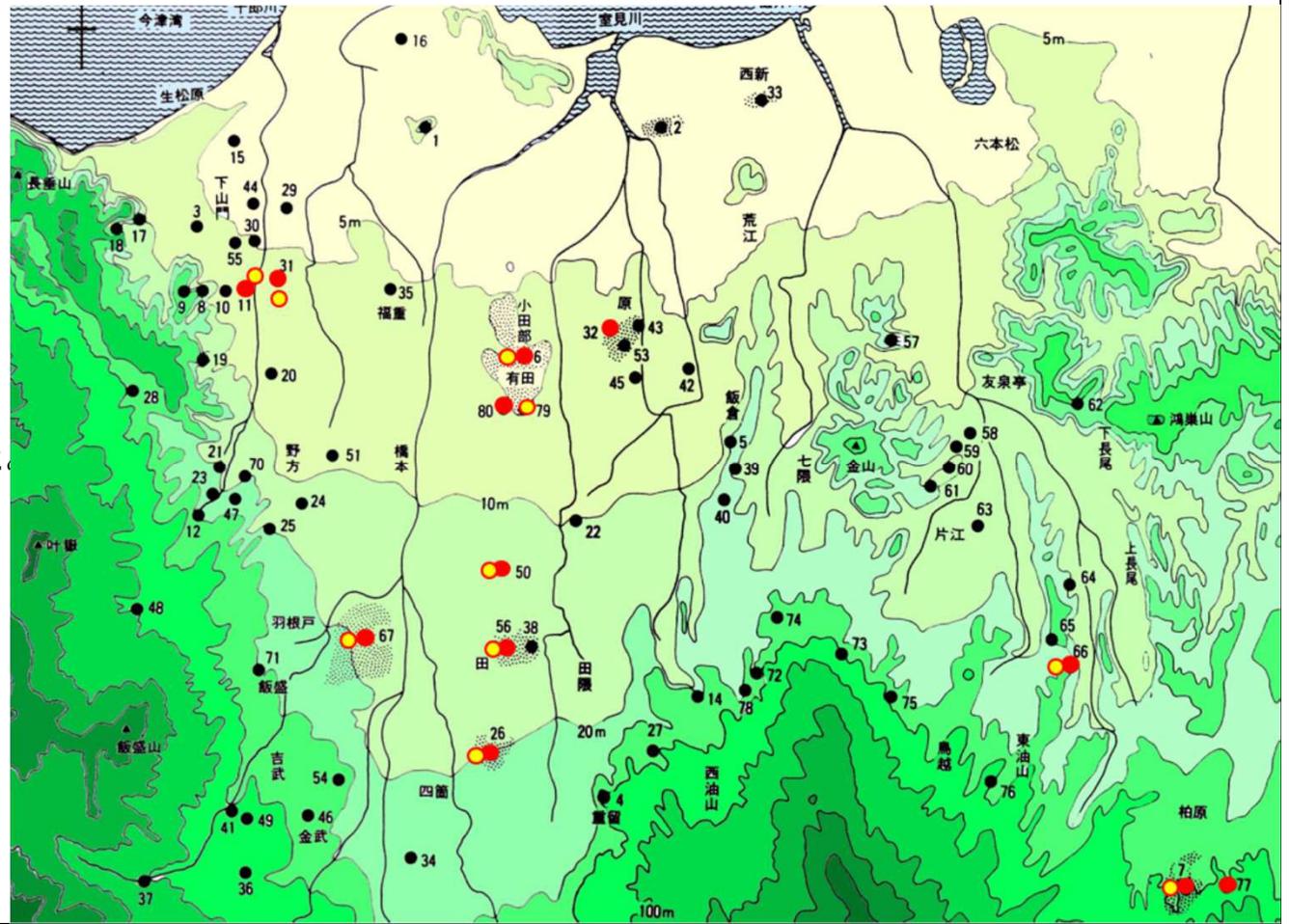
特設展図録  
「早良王墓とその時代」  
福岡市立歴史史料館  
の図に着色

# 早良平野の弥生遺跡分布を読む

- 弥生前期の遺跡は、何を意味するのか？
  - 縄文時代の遺跡 ● には、縄文以前の遺跡と、一万年を超える縄文時代の長い長い時代の遺跡と縄文晩期の初期水田稲作の遺跡が含まれる。
  - その全ての縄文遺跡(集落)には、弥生前期の遺跡が重なって現れた。(下図を参照)
    - (32.77の遺跡は、縄文のもっと古い時代の遺跡で、弥生時代の痕跡は無い。)
- 弥生渡来民が、弥生前期に早良平野に入った時、その地域の縄文人の集落を襲い、その集落の地に弥生集落を築いたものと考えられる。

## その結果早良平野では

- 弥生前期・中期と集落が平坦な地域全体に広がり、水田開発が進み、豊かな農業地帯となったものと推定。
- 中期には、王が、他の多くの人々とは違った生活を始め、大きな建物を築いた。
- その王墓は、弥生中期に出たが、その後は早良平野からは無くなり、福岡平野に移動する。
- 集落自体は、後期まで継承する。



# 弥生初期の土器変遷図

第47回 埋蔵文化財研究集会

## 弥生文化の成立

—各地域における弥生文化成立期の  
具体像— 発表要旨集

2000年2月11・12日高知城ホール  
北部九州における弥生文化の成立  
福岡市教育委員会菅波正人氏の図より

- 1次渡来民が使用した夜臼Ⅰ式・夜臼Ⅱa式・夜臼Ⅱb式は、ある段階から、
  - 同時期に、
  - 全ての場所で、
 2次渡来民の遠賀川式土器(板付Ⅱ式)に置き換わった。
- 両方式が並存する時期があることから、この変換期には、
  - 全員抹殺ではなく、
  - 多くの住民(特に土器を製作した女性達)は、生き延びたもの
 と推察する。

突帯文土器～遠賀川式(系)土器の遺跡一覧表

地図 番号	遺跡名	板付遺跡G- 7a・b調査区下 層	板付遺跡G- 7a・b調査区中 層	板付遺跡G- 7a・b調査区上 層	雀居遺跡5次 SK188他	比恵遺跡30次 SU007他	比恵遺跡30次 SU012他	備考
1	菜畑遺跡	●	●	●+○	○	○		水田跡、大陸系磨製石器
2	石崎曲り田遺跡	●						集落、大陸系磨製石器
3	有田七田前遺跡	●	●					大陸系磨製石器
4	有田遺跡		●	●+○	○+◎	○	○+亀の甲タイプ	環濠集落、松菊里型住居、大陸系磨製石器
5	橋本一丁田遺跡	●	●	●+○	○+◎			大陸系磨製石器
6	石丸古川遺跡		●	●+○				大陸系磨製石器
7	重留遺跡				○+◎	○	○+亀の甲タイプ	松菊里型住居
8	板付遺跡	●	●	●+○	○+◎極少	○	○+亀の甲タイプ	環濠集落、松菊里型住居、大陸系磨製石器
9	雀居遺跡	●	●	●+○	○+◎極少	○	○+亀の甲タイプ	大陸系磨製石器
10	那珂遺跡		●	●+○	○+◎極少	○	○+亀の甲タイプ	環濠集落、大陸系磨製石器
11	比恵遺跡		●	●+○	○+◎極少	○	○+亀の甲タイプ	松菊里型住居、大陸系磨製石器
12	雑餉隈遺跡				○	○	○+亀の甲タイプ	大陸系磨製石器
13	江辻遺跡	●	●	●+○				松菊里型住居、大陸系磨製石器
14	今川遺跡			●+○	○	○		環濠集落、松菊里型住居、大陸系磨製石器
15	前田遺跡				○	○		方形プラン型穴住居跡、大陸系磨製石器
16	大木遺跡			●				松菊里型住居、大陸系磨製石器
既往の編年・型式・様式		夜臼Ⅰ式	夜臼Ⅱa式	夜臼Ⅱb式+ 板付Ⅰ式	板付Ⅱa式(古)	板付Ⅱa式(新)	板付Ⅱb式	

●は晩期(早期)の突帯文土器 ○は遠賀川式(系)土器 ◎は弥生土器化した突帯文系土器

# 多くの人達の手を合わせるには

- テーマと決めて、
  - 基本的なレポートを行い
    - 課題・問題を全員で把握
  - 解明に必要な、
    - 文献を調べ
    - 関連科学・学問を列挙し、
    - 調べる分野を選んで、調べる人を選ぶ
    - 調査報告を聞き、基礎情報を理解し、
    - 文献検討・考古資料などを再検討
  - 複数の報告者が、調査結果を踏まえてまとめ、報告
    - 報告を聞き、
      - その結果を討議
    - 判明したこと、しなかったことを含めて
      - 該当テーマの取りまとめを行う。
        - 結論が出れば幸い
          - でなければ、残る課題をまとめる。
- こんな方法を探り、やって行き、試行錯誤しながら、より良い方法を探して、解明して行きたい。

- 科学的に、論理的に
  - 古代史はロマンですが、実証主義で共同作業を行う。
  - 仮説を立て、述べる場合には、
    1. 根拠となる事実を示すこと、
      - ✓ その根拠が信頼の置けるものであることを示す。
    2. その根拠から導き出せる可能性を複数示し、
      - ✓ どの可能性を選択したか示すこと。
  - 根拠を示せない論は、
    1. 基本的には取り上げない。
- 歴史研究で云う、『史料批判』を行うことを大原則とする。
  - 論拠とする史料について
    - その史料の信頼性を検証すること
    - その史料から導き出せる可能性のある複数の推論を示す
      - 複数の可能性を検討し、
        - 真実を求める

## 解明作業の原則 その2

- 歴史は、時間軸と空間を扱う

☆古代の文献では、時間軸が不正確であったり、歪んだりしている。

- 時間軸を示すものを探し出す、

- 家系図などから時間軸を取り出す
- 遺物の年代推定を利用

- 土器編年・青銅器の形式・鏡の形式・科学的年代測定

- 空間・地域の情報を探し出す、

- 神話・伝承と地域の遺物・神社との対応関係を調査

- 説を述べる・記述する場合に時間軸と空間の記述を入れること

- 一覧表・グラフ・地図・模式図

- 共通認識を図るためには、図表により、『見える化』をはかることが役立つ。

- 『見える化』により、歴史認識が明瞭になる。

- 新しい視点が見つかり、認識を改める(発見する)ことがある。

# 解明のための方法論

- 以上の説明を、一つのたたき台として、
  - 皆さまの意見を披露して頂き、
    - 解明のための方法論を作り上げて行きたい。
    - 皆様のご協力をお願い致します。
- 日本古代史ネットワーク研究会
  - 古代史研究の方法論 (2020年12月)東京
  - 日本人の起源 (2021年 1月) 東京
  - 弥生時代から古墳時代 (2021年 2月)東京
  - 邪馬台国論 (2021年 3月) 東京
  - 科学的年代測定法とその適用
  - 日本書紀・古事記・風土記の世界
  - 大陸との交流